

※イメージ、今後詳細を検討

みどりのわ・ささえ愛プラン

骨子

(緑区地域福祉保健計画)

【計画期間：令和8年度～令和12年度】

～誰もが安心して暮らし続けられる緑区をめざして～

令和6年〇月

緑区役所 緑区社会福祉協議会

緑区地域ケアプラザ

目次

- 1 みどりのわ・ささえ愛プラン（緑区地域福祉保健計画）とは・・・・・・・・・・・・・・・・
- (1)みどりのわ・ささえ愛プランの構成
- (2)第5期計画の策定経過と今後のスケジュール

- 2 第4期計画の主な取組・成果等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
- (1)重点取組項目の振り返り
- (2)計画全体の振り返り

- 3 緑区の現状 ～地域福祉保健を取り巻く状況～・・・・・・・・・・・・・・・・

- 4 区民意識調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
- (1)地域でのつながり及び活動の機会・場について
- (2)安心・安全に関する意識について

- 5 第5期計画(区計画)の方向性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

- 基本理念・・・・・・・・
- 全体目標・・・・・・・・
- 地区別計画を支える取組
 ・・・・・・・・
- 区域全体での取組・・・・・・・・

- 6 区計画の取組主体・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

- 7 緑区役所・緑区社会福祉協議会・地域ケアプラザの役割・・・・・・・・

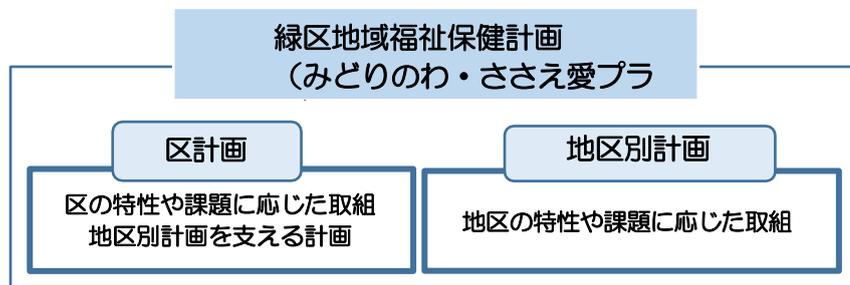
第5期みどりのわ・ささえ愛プラン(緑区地域福祉保健計画) 骨子

第5期みどりのわ・ささえ愛プラン「緑区地域福祉保健計画」(令和8年～12年度)の策定にむけて、これまでの取組を土台に、計画の基本的な考え方や方向性を「骨子」としてまとめました。後、皆様のご意見をうかがいながら、計画の策定を進めていきます。

1 みどりのわ・ささえ愛プラン(緑区地域福祉保健計画)とは

(1) みどりのわ・ささえ愛プランの構成

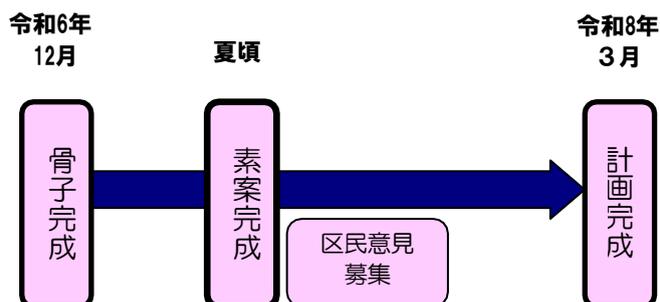
みどりのわ・ささえ愛プランは、区全体で取り組む「区計画」と、連合町内会・地区社会福祉協議会のエリアで取り組む「地区別計画」で構成されています。



(2) 第5期計画の策定経過と今後のスケジュール

みどりのわ・ささえ愛プラン策定・推進委員会、検討部会、区民意識調査、第4期計画の振り返りや緑区の特性・課題、社会情勢の変化等を踏まえて、骨子の作成を進めてきました。

今後は、取組の推進に必要な「視点」を盛り込みながら、素案の作成、区民意見募集を行い、令和8年3月には第5期計画を策定します。



2 第4期計画の主な取組・成果等

(1)重点取組項目の振り返り

(2)計画全体の振り返り

○区内における、各分野のネットワークづくりが進みました。

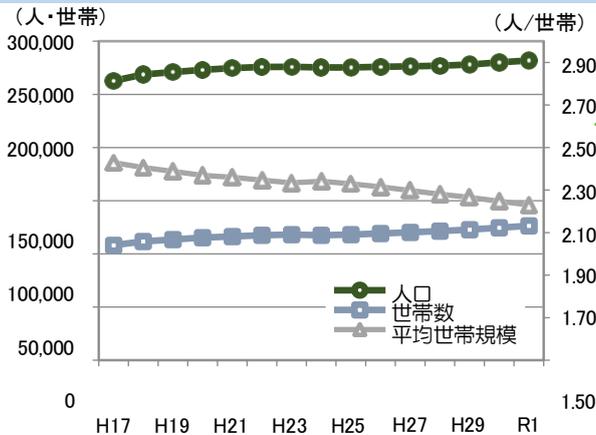
○大学や企業、社会福祉法人などの多様な主体による地域への関わりが増え、連携した取組が進みました。

○地区別計画が、地域ケアプラザエリア単位から連合町内会自治会・地区社会福祉協議会エリア単位になり、さらに各地区の特性に応じた様々な取組が広がりました。

○

3 緑区の現状 ～地域福祉保健を取り巻く状況～

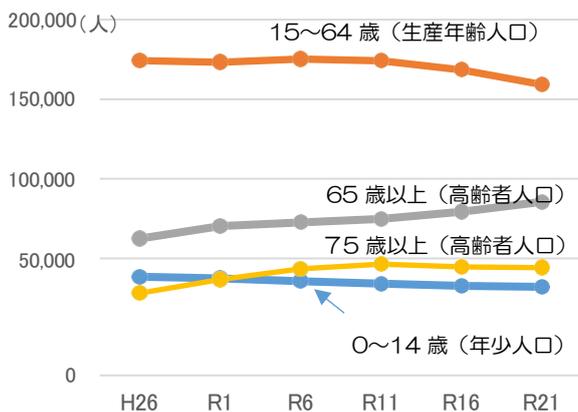
人口、世帯数のゆるやかな増加が続いています



緑区の総人口は〇〇人であり、市内4位です(令和〇年〇月末現在)。平成●●年から、ゆるやかな増加が続いています。
特に緑駅・東緑駅周辺を中心に、人口が増加しています。また、生活・交通の利便性の良さを主な理由として、約8割の方に定住の意向があります。

出典：「町丁別年齢別人口(住民基本台帳)」各年9月末現在
令和6年度 区民意識調査結果

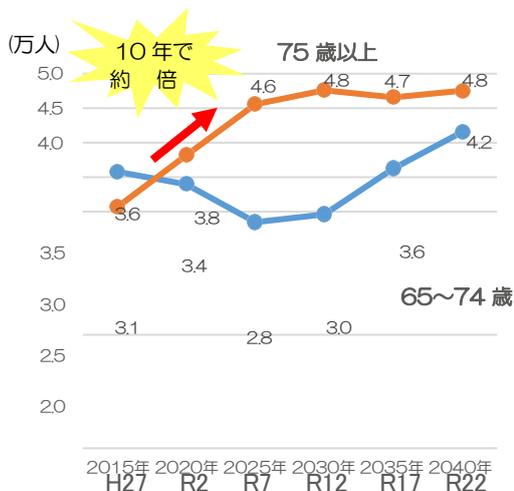
子ども、働き世代は減り、高齢者が増えています



年少人口(0~14歳)、生産年齢人口(15~64歳)は減少傾向であり、高齢者人口(65歳以上)は増加傾向が続いています。
年少人口()、高齢者人口()は、市平均に比べてわずかに多く、生産年齢人口()は市平均より少ない結果となっています。

出典：近年の町丁別年齢別人口(住民基本台帳)の変化の傾向をもとにした推計(H26~R1は実績値)
「町丁別年齢別人口(住民基本台帳)」各年9月末現在

認知症などの介護が必要な高齢者が増えています



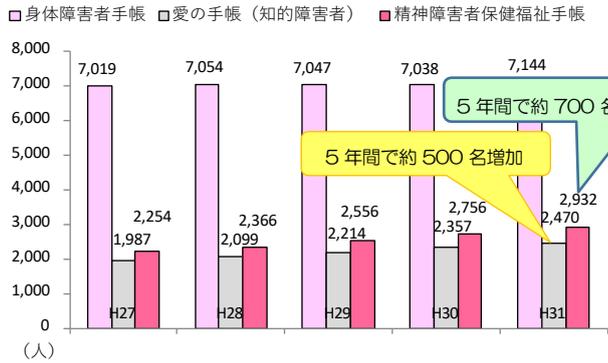
後期高齢者(75歳以上)の人口は平成〇〇年から令和〇年の10年間で約〇万人から〇万人(約〇倍)になると推計されています。

また、高齢者の〇〇%が要介護認定を受けており、約半数に何らかの日常生活に支障をきたす認知症状があります。

後期高齢者が急増するため、今後も介護を要する高齢者は増加が見込まれます。

出典：政策局政策課「横浜市将来人口推計」(HO年)
介護保険 統計データ(HO.●月末現在)

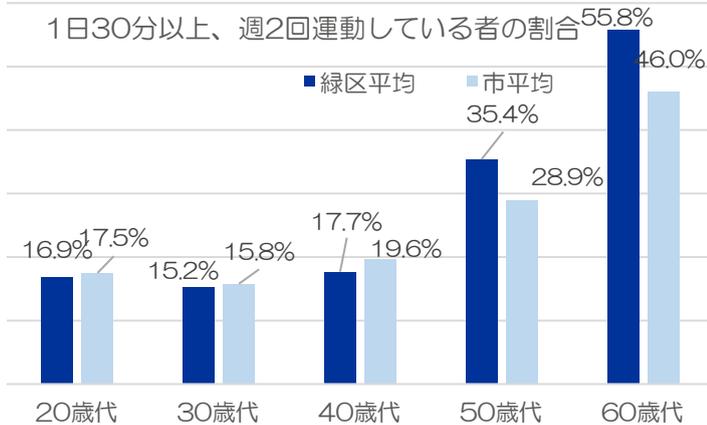
精神障害、知的障害の障害者手帳所持者が増えています



各障害者手帳の所持者のうち、精神障害と知的障害の手帳の所持者の増加が続いています。
障害者が地域の中で安心して暮らし続けられる社会が求められています。

出典： データで見る緑 ○年版
(障害者手帳所持者数)

若い世代は定期的な運動習慣が少ない傾向にあります

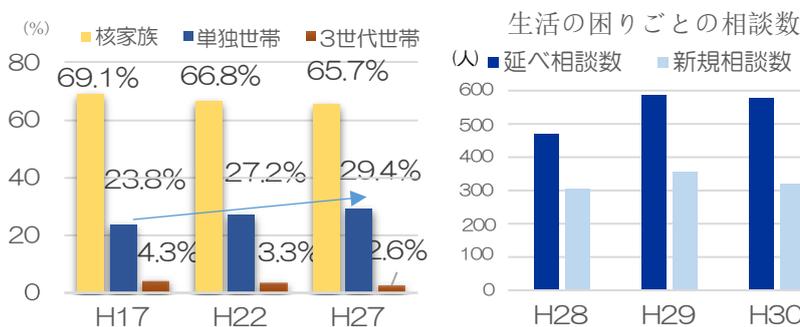


50歳～60歳代に比べて、20～40歳代は定期的な運動習慣のある人が少ない傾向があります。

また近年、全国的に児童の体力低下も問題視されています。いくつになっても健康で自立した生活を送るには、若い頃から、運動や食生活などの健康を意識した正しい生活習慣を身に付けることが大切です。

出典： 第0期健康横浜21 健康に関する市民意識調査(H00.●月) 参考： 令和0年 全国体力運動能力運動習慣調査

孤立や生活に不安を感じている人がいます



少子高齢化や単身世帯の増加、自治会加入率の減少など、地域のつながりが希薄になっています。孤立や既存の支援制度では対応が難しい「制度の狭間」の問題が顕在化し、生活の不安を感じている人がいます。

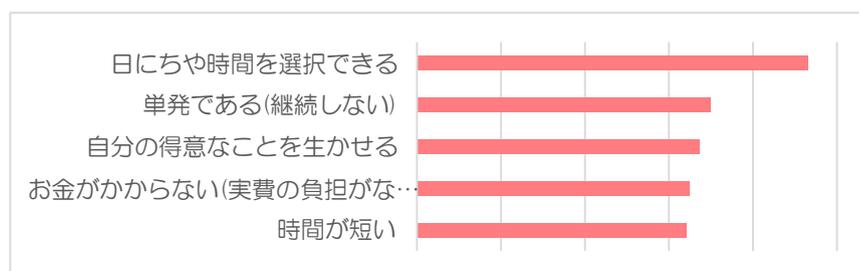
今後、そのような人々たちへの配慮や理解、地域での支えあいが求められています。

出典： 主な家族類型の動向 国勢調査結果 各年10月1日現在
平成●●年度 緑区福祉保健センター事業概要

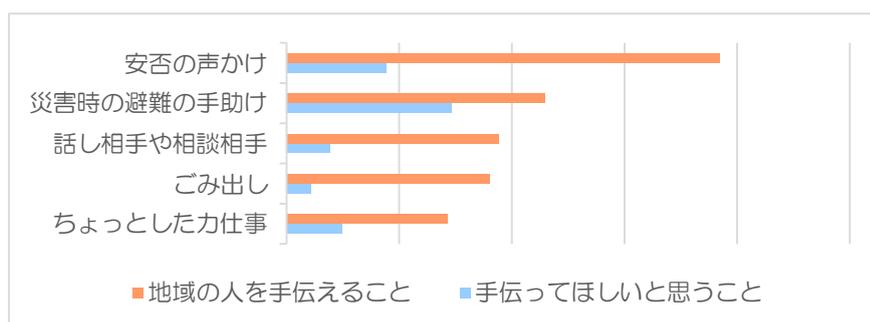
4 区民意識調査結果 (調査時期：令和6年6～7月 調査対象：4,000人 回収率：%)

(1) お互いさまの関係づくり ～気軽にできる範囲の「お互いさま」～

お住まいの地域で何か困っている人がいたら、「可能な範囲で手助けしたい」と回答した方の割合は84.5%でした。「どのような場合なら手助けをしたいと思いますか」の問いからは、日にちや時間を選択でき、単発であることや、得意なことを生かせるなどの機会が、地域での支えあいに大切なことがわかります。

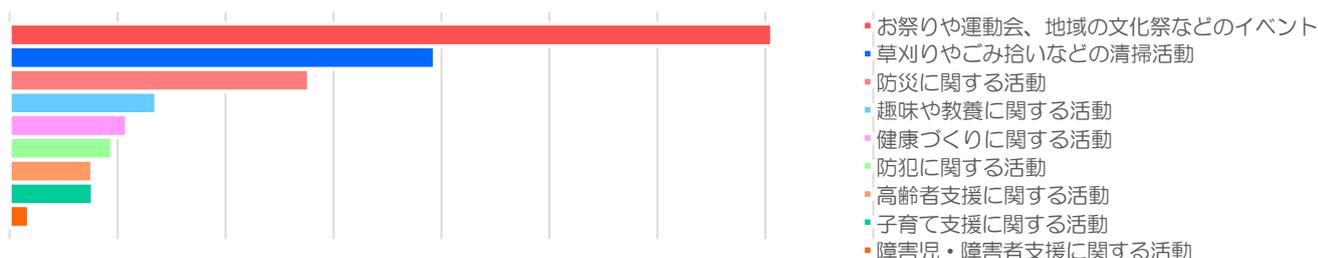


また、「日常生活の中で、お住まいの地域の人に手伝ってほしいこと、地域の人を手伝えることはありますか」の問いでは、地域で助けあえることとして、災害時の避難の手助けや安否の声かけなどの回答があり、そのためには、日頃からのご近所つながりが大切です。



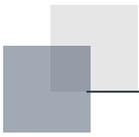
(2) 地域の活動・交流の場 ～参加のきっかけは「気軽に」「人からのお誘い」～

「お住まいの地域でどのような催しや集いに参加しましたか」の問いでは、「お祭りや運動会、地域の文化祭などのイベント」の回答が多く、「催しや集いに参加して、よかったと感じたこと」では、「気軽に参加できた」「楽しかった」「新しい知り合いができた」などの回答がありました。



また、「どのような状況であれば参加しやすいですか」の問いからは、「気軽に参加できる活動があること」や「知人・友人など、誘ってくれる人がいること」などが、参加のきっかけになることがわかります。





調査結果続き

5 第5期計画（区計画）の方向性

第5期計画（令和8年度～12年度）は、第4期計画（令和3年度～令和7年度）の取組の継続性等を踏まえ、基本理念・基本目標を継承していきます。また、各基本目標の「取組目標」は、緑区の特性や課題、区民の皆様のご意見、社会情勢等の変化を踏まえ、見直しを行いました。

第4期計画では、子どもから高齢者まで包括的な視点をもとに、制度の狭間や地域の複合的な生活課題にも対応できるよう分野横断的な連携強化を図り、取組を進めていきます。また、より多くの皆様に取組を知っていただけるよう、様々な機会や場を通じてお知らせするとともに、次世代に向けた働きかけなど、将来を見据えた視点で取組を進めていきます。

基本理念
誰もが安心して暮らせる緑区をめざして

重点取組項目 1

【目指す姿】

〔取組目標〕

1-1

1-2

1-3

1-4

重点取組項目 2

【目指す姿】

〔取組目標〕

2-1

2-2

2-3



重点取組項目 3

〔取組目標〕

3-1

3-2

3-3

重点取組項目 4

〔取組目標〕

4-1

4-2

4-3

重点取組項目 5

〔取組目標〕

5-1

5-2

5-3



重点取組項目 6

〔取組目標〕

6-1

6-2

重点取組項目 7

〔取組目標〕

7-1

7-2

重点取組項目 8

〔取組目標〕

8-1

8-2

重点取組項目 9

〔取組目標〕

9-1

9-2

